

くまむら農業・最適化推進運動

農委会名：球磨村農業委員会

1 地域の概要

本村は熊本県の南部に位置し、村の面積の約88%が山林で、中央を日本三大急流の1つである球磨川が貫流している。その球磨川の支流には、多彩な棚田が広がっており、「松谷棚田」「鬼ノ口棚田」は「日本の棚田100選」にも選ばれている。

また毎床地区で作られている「一勝地梨」は2012年に植栽されて100年を迎えた村の特産品として各地に出荷されている。

令和2年7月豪雨による被害で生産性の高い集団農地を含む約89haの農地が被災し、現在球磨川流域では引き堤や遊水地が計画されている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 7人（うち、認定2人、女性1人）
- (2) 推進委員数 6人（うち、女性2人）
- (3) 事務局体制 3人（専任2人、兼任1人）

3 掲げた目標

- (1) 耕作放棄地対策 1ha
- (2) 利用状況調査の実施 446ha

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

- (1) 村道沿いの遊休地を景観美化活動の一環として、花の種等を3種類植栽した。



別紙様式①

- (2) 農地パトロールの一環で、今年度は令和2年豪雨被害で被災した宅地の造成地について、現地確認するとともに県の復興担当者から進捗状況の説明を受けた。



- (3) 復旧の見通しが立たない農地の非農地判断を実施した。



- (4) 災害復旧に伴い、現在熊本県が借用している土砂の仮置き場について、復旧後の営農再開に向けて意向調査を実施した。



5 取り組みの成果

- (1) 主要村道沿いの畑817㎡で実施したが、地元住民からは、景観と見晴らしが良くなったと喜びの声が聞かれた。
- (2) 委員6班体制のもと446ha、筆数9,612筆について実施できたが、災害後の影響で現地に入れられないなど、立入困難等の理由で調査出来なかった面積が49ha、筆数1,077筆であった。
- (3) 被災後復旧が難しい農地について現地調査を実施した結果、3筆、2,583㎡を非

別紙様式①

農地判断として処理した。

(4) 関係者53名、117筆、面積59,462㎡について実施した。

【結果】

今後も営農を行う（再開する）	4名	4筆	2,667㎡
売却してもよい	39名	92筆	46,779㎡
賃貸してもよい	5名	13筆	6,897㎡
その他	2名	2筆	2,379㎡

契約後は、現状復旧する予定になっているが、遊水池内の営農エリア代替地（関係面積15,127㎡）も予定されていることから、今後、所有者とのマッチングが必要になる。基本、賃貸契約で実施する予定にしているが、耕作予定者の希望により、3条申請も同時に受け付ける。

また、基盤法の改正に伴い、農地中間管理機構とも連携して事業を推進し集積・集約化につとめる。

6 課題と今後の方針等

残された活用できる農地を減らさぬよう、今後も農地集積・集約化に努めたい。そのためには集落における話合いの場を設け、農業委員・農地用最適化推進委員全員で取り組んで行くことが大事である。

また今後も、耕作放棄地の防止及び解消に向け、景観美化活動も引き続き行っていく。